

介護付有料老人ホーム全棟にエスケープ製品を導入

アズパートナーズ株式会社

代表取締役社長 植村健志様

安心して豊かな暮らしができる高齢者住宅をつくりたい」という思いで2004年に創業。

あらゆる方々の良きパートナーとして不動産・シニアビジネスを展開してまいりました。



おかげさまでシニア事業では2021年4月時点で、介護付ホーム22棟、デイサービスセンター16棟、ショートステイ4棟、計42事業所が稼働しており、従業員1500名以上が勤務しております。

お客様のニーズにお応えし、最後まで自分らしく、自分の力で豊かに暮らして頂けるよう、またご家族様にもいつでも安心して頂けるよう日々努めております。

世代を超えた暮らしを提案できる企業として、各世代の方々の幸せを実現すべく、スタッフの働く環境や教育にも力を入れています。弊社ではIoTやICTも積極的に取り組み、EGAO link というシステムを導入しています。EGAO linkは、呼吸数や心拍数、睡眠状態を各自のベッドに敷設したマットを通して自動的に把握し記録、センサーがカメラではなくマットであるためお客様のプライバシーを尊重しつつお客様の状態を常に見守るシステムです。

スマートフォン1台で「見守りセンサー」「ナースコール」「介護記録」が可能になった事でスタッフの負担が軽くなり業務改善に繋がっています。スタッフの笑顔が増えればお客様の笑顔も増える、結果的にサービスの質の向上につながると考えています。

EGAO link詳細<https://as-heim.com/lp/egaolink/>

2020年にはスマホ用インカムシステムBONXを導入、緊急の場合や無駄な動きの削減、情報共有がスピーディーに行われることでご入居者への適切な処置・介助に活かせるなど、より安全で安心な体制を整えています。

BONX詳細<https://as-heim.com/lp/with-bonx/>

これらIoTやICT導入の動きは、離職率の低下や、新卒採用にも良い影響を及ぼしています。

IoTやICTを積極的に取り入れている弊社ですが、緊急時の避難移動に関しては敢えて、電池も電波も使わない完全にアナログなエスケープ製品を採用しました。

定期的に避難訓練を実施していますが、緊急時には様々な「想定外」が発生する可能性があります。

エスケープ商品導入の最大のポイントは製品がとてもシンプルで誰でも簡単にすぐに使用でき、ADLの低いお客様をスタッフ1名で避難移動できる点です。

緊急避難を要する事態が発生しないに超したことはありませんが、もしもに備えお客様を迅速に安全な場所に移動する手段として、弊社は介護付有料老人ホーム全棟に導入しています。

今後も新設の介護付ホームには導入していく予定です。どこの施設に行っても同じ避難用具が装備されていることで、スタッフの避難用具の使用経験値が活かされ、まさにいざという時に力を発揮すると期待しています。

